

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 42

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○名鉄ウォーク

三月二十六日（土）、
前日とは変わってウォー

キング日和。午前九
時前から木曾川橋を笠
松町に向かい歩いて渡
る人々。橋を渡ると、

川沿いに笠松みなど公

園東屋へと向かう。防寒着に身を包み

手袋姿。晴れとはいえ、あたりは冷た

い西風が吹き抜け、膨らんだ桜のつぼ

みもいまだ堅い。そんな中で、人の数

はしだいに増え、絶え

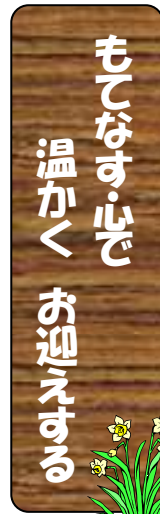
ることなく笠松競馬場

へと向かう。

○もてなす心で！

来ていただく方を温かく迎え、**わが町**
笠松の心を感じてもらいたい。そんな思

いで、実行委員会を中心にもてなしの
準備をされたが、東日本大震災を受け
予定は変更された。コース沿いの掃除、



屋内では、「ま
ちの駅」の紹介、
義援金寄付に
向けた笠松物

産販売、お茶準備などボランティア隊
二十数名の方がかがいがいしく働く。

○義援金のお願い！

東屋前で、通りかかる人に震災被災
者を支援する義援金の呼びかけも行わ

お茶のもてなし、義援金の呼びかけな
どさやかなおもてなしとなった。

○温かく迎える！

東屋の前には、『ようこそ 笠松へ！

お茶をどうぞ お休みください』と名

鉄ハイキングおもてなしボランティア

隊による看板。その脇で、女性が湯呑

みに温かいお茶をついで勧める。湯呑

を手にベンチに腰をおろしたり立った

まま川の景色を眺めたりして、お茶をい

ただく人々。親しさとやさしさがただよ

い、あたりは温かい雰囲気に含まれる。

れた。被災地の惨状を伝える写真を前
に、募金のお願いをする子どもたち。
協力いただいた方には、子どもたちの心
をこめた折り紙が手渡される。自分た
ちに今できることは、多くの方に声をか
け気持ちを伝えること。そんな思いが伝
わってくる。実行委員会の「もてなす心」
は笠松の心として、訪れた方々の心に浸
み込んでいった。



東屋で お茶接待、物産販売、義援金の呼びかけをする
名鉄ハイキングおもてなしボランティア隊